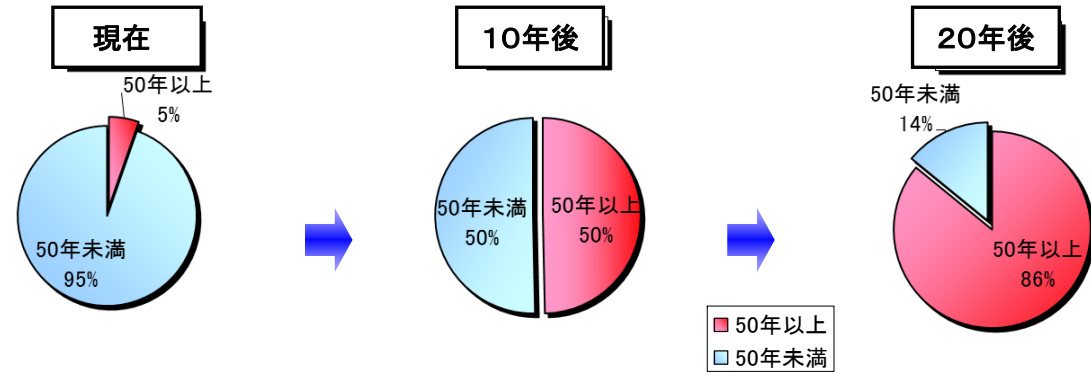


甲州市橋梁長寿命化修繕計画

1 橋梁長寿命化修繕計画の目的

- ◆ 甲州市は現在307橋の橋梁を管理しています。これらの橋梁は今後、老朽化し、更新による財政負担が大きくなることが懸念されています。橋梁長寿命化修繕計画は、予防的な修繕を行うことで橋梁の延命化を図り、道路交通の安全性と信頼性を将来にわたり確保することを目的として策定します。また、これにより予算の平準化と維持管理コストの縮減を図り、次の世代に大きな負担をかけることなく、持続可能な維持管理を行います。



〔建設後50年以上経過した高齢化橋の推移〕 ※建設された年の明らかな橋梁で集計 ※現在とは、2021年時点を示す

2 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

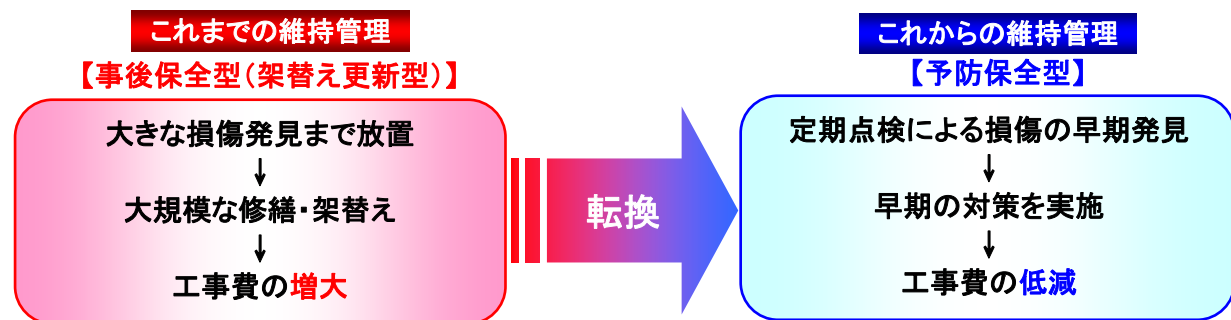
橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁の内訳は、下表のようになります。

	1級市道	2級市道	その他市道	合計
計画対象橋梁数	66	32	178	276

ボックスカルバートを除く橋長2m以上の橋梁を対象とする。

3 橋梁長寿命化修繕計画の内容

- ◆ 甲州市では、平成21年度から橋梁点検を行い、今後も5年間隔で点検を行うことで安全確保に努めていきます。
- ◆ 点検結果より橋梁の健全性の評価を行い、交差条件や路線の状況等に応じて橋梁の重要性を定め、計画的な修繕が行えるよう優先順位を決めます。
- ◆ 橋梁の損傷が深刻化してから大規模な修繕や架替え更新を行う対処療法的な事後保全型管理から、損傷が深刻化する前に計画的に修繕を行う予防保全型管理へ転換し、橋梁の長寿命化を図るとともに、修繕に係わる費用の縮減を図ります。

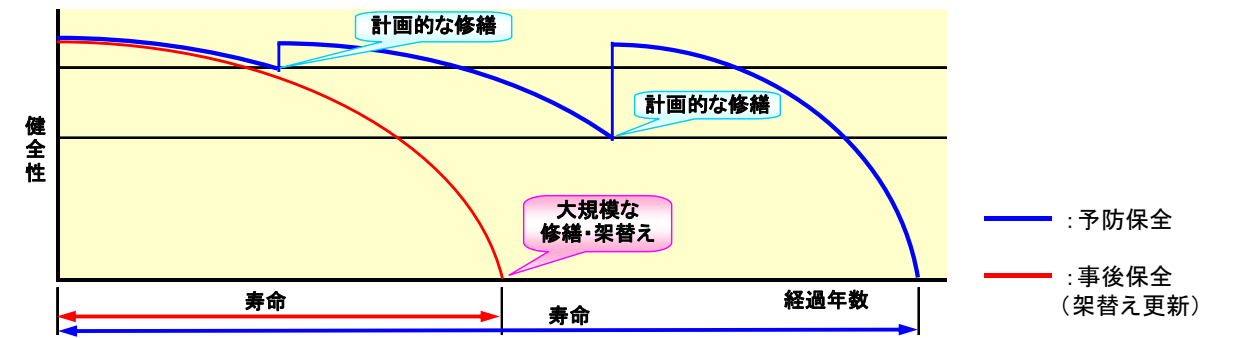


- ◆ 一定期間の橋梁の維持管理にかかる費用であるライフサイクルコスト(LCC)の試算を行い、予防保全的な維持管理へ転換した場合の効果を確認します。

4 橋梁長寿命化修繕計画による効果

【高い安全性の確保と橋梁の長寿命化】

- ◆ 対処療法的な事後保全型管理では大きな損傷が発見されるまで放置されるため、危険な状態が続きます。予防保全型管理では早期の対策を実施するため、高い安全性の確保が図れます。
- ◆ 計画的に修繕を行う予防保全型管理の橋梁は、大きな損傷が発見されるまで修繕を行わない対処療法的な事後保全型管理より橋梁の長寿命化が図れます。



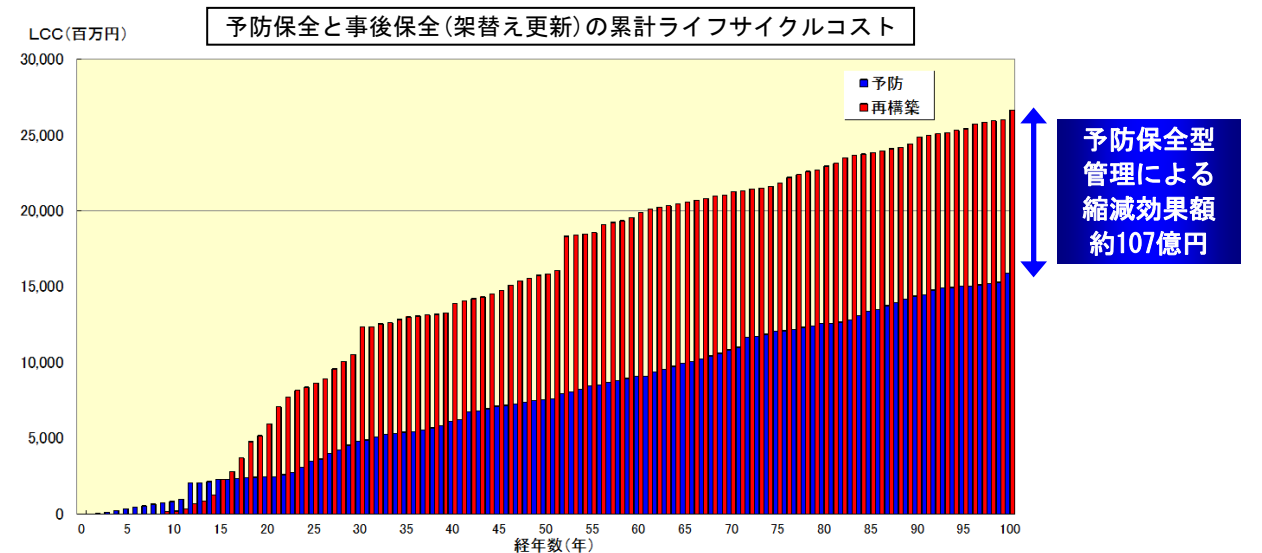
【予算の平準化】

対処療法的な事後保全型管理では大規模な修繕・架替え更新を行うため、単年度の事業費が大きくなります。予防保全型管理により計画的に修繕を行うことで、予算の平準化が図れます。

【ライフサイクルコストの縮減】

計画的な修繕を行う予防保全型管理は、大規模な修繕や架替え更新によって工事費が大きくなる事後保全型管理よりもライフサイクルコストの縮減が図れます。 → **縮減効果額は約107億円となります**

	事後保全(架替え更新)管理	予防保全型管理
対象橋梁の100年間のLCC合計	約266億円	約159億円



5 計画策定担当部署とご意見を頂いた学識経験者

計画策定担当部署 : 甲州市 建設課 TEL 0553-32-2111

学識経験者 : 山梨大学 工学部 土木環境工学科
工学博士 杉山 俊幸 教授